

## 琵琶湖西岸のコハクチョウ

堀野善博

新旭町水鳥観察センター, 520-1531 滋賀県高島郡新旭町饗庭1600-1

### 昭和56年より、湖西水域のコハクチョウの越冬状態

昭和56年より、湖西水域で越冬するコハクチョウの個体数を新旭町水鳥観察センター(図1)観察指導員が調査してきた。調査方法は、水鳥観察センターに勤務する日の午前8～9時に、湖岸の10ヶ所(図2)でコハクチョウの遊泳数を記録するものである。

初認日は、昭和56年度には12月16日であったが、その後は10月下旬～11月上旬で、年によっては11月中・下旬になることもあった(表1)。終認日は、昭和57年度に1月12日、昭和61年度に2月16日、平成9年度に11月29日であったことを除くと、多くは2月下旬～3月中旬であった。

シーズンの最大渡来数は年によりかなり変動があり、もっとも少なかったのは昭和57年度の27羽、もっとも多かったのが平成7年度の93羽である(表1)。

### 湖北・湖西水域に多く越冬するのはなぜか

琵琶湖を中心にした4水域、湖南・湖東・湖北・湖西のうち、コハクチョウは湖北と湖西水域に多く越冬する。その要因として考えられることは、琵琶湖西岸の新



図1. 新旭町水鳥観察センター (センターのパフレットより)

旭町にはヨシの大きな群落があり、安曇川町にも小規模ではあるがヨシ群落があることで、このような生息条件が越冬に適しているとおもわれる。

また降雪が関係しているようである。新旭町では大雪が降っても、大津ではまったく降らず、琵琶湖沿岸地域の北部と南部の間に「雪降り前線」ともいえる境界線があり、それを境に北部では越冬する。

### 湖西より湖北で越冬数が多いのはなぜか

琵琶湖全体で見ると、湖北・湖西の水域で多くのコハクチョウが越冬するが、湖北と湖西とで比べると、越冬数は湖北の方が3倍、年によって4倍も多い。

この違いを生じる要因として考えられるのは、湖底の地形の違いと農作物の違いである。湖底の地形は、湖西では断層があるのに、湖北では堆積物が多い。そのため、湖西では遠浅が少ないのに対し、湖北では遠浅が多いことである。体の前部だけを水中に入れて食物をとるコハクチョウにとっては、採餌条件として浅瀬であることが重要で、その面積が広いことはより広い範囲で採餌できることになる。また、湖西でも湖北でも裏作としてムギを植えているが、湖西では平坦地が狭く耕地が少ないが、湖北では耕地が広い点が異なっている。コハクチョウはムギ畑でも採餌していると考えられるので、耕地面積の違いは食物量の違いになり、この違いが越冬数に反映しているとおもわれる。

### 琵琶湖の水位との関係

琵琶湖に水位は、大津市南郷にある洗堰で調節されている。コハクチョウの越冬数は、越冬期間である11月～3月の水位と関係している。例えば、平成11年度において、琵琶湖の水位(今津水資源開発公園のデータ)とコハクチョウの越冬数との関係を見ると、越冬数は水位が高いときには少なく、水位が低いときには多くなる(図)。

コハクチョウの主食は、琵琶湖の湖底の藻であるが、水位が高いときこれらの藻を食べにくいいため、水位の変動がすぐに越冬数に影響するので

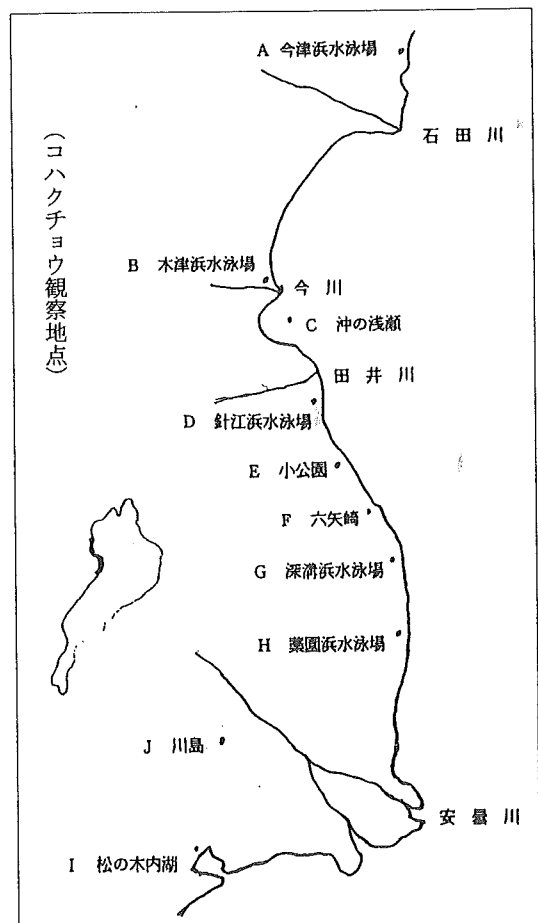


図2. コハクチョウの観察地点.

表1. 湖西水域のコハクチョウの越冬状況

年度	初認	終認	最高渡来数 (月日, 地点)
1981	12月16日	3月6日	23 1月27日, A, B
1982	11月13日	1月12日	12 12月29日, D
1983	11月25日	3月26日	12 12月10日, B
1984	10月31日	3月4日	26 12月24日, C, D
1985	11月1日	3月15日	19 1月10日, F
1986	11月8日	2月16日	61 12月18日, C, F, H, I
1987	11月1日	3月4日	56 11月28日, A, B, C, F
1988	11月10日	2月12日	42 1月2日, C
1989	10月30日	2月25日	48 11月18日, A, E, H
1990	10月25日	3月19日	33 2月7日, B, H, I
1991	10月29日	3月31日	53 11月29日, A, B, F
1992	10月24日	3月21日	48 12月9日, C, G, I
1993	11月1日	3月15日	72 2月23日, I
1994	10月31日	3月12日	90 11月30日, I
1995	10月21日	3月14日	93 1月14日, I
1996	10月18日	2月24日	75 11月28日, I
1997	11月3日	11月29日	47 11月24日, G
1998	11月26日	2月28日	46 11月15日, I
1999	11月3日	2月22日	69 12月25日, C, G
2000	11月9日	2月21日	57 11月11日, H

あろう。

#### コハクチョウの餌調べ

平成12年には11月9日に6羽が飛来したが、湖で藻を食べず、水田の二番穂を食べていた。この年には夏の渇水で湖底の藻の生育が悪く、湖底の藻が少なかったとおもわれる。

そこでコハクチョウの主食である藻について、月1回新旭町湖岸の6ヶ所で調べた。調査方法は、長さ約70cmの金属棒に有刺鉄線を数回巻き、その棒の両端にロープを結び付けた「藻採取器」(図 )を漁船で引っ張り、コハクチョウの嘴がとどく水深約80cmの藻を採取した。藻を採取した後に、種類ごとに分け、重量を測定した。

藻は、カナダモ、エビモ、ササバモ、センニンモの順で多く、重量は8月が最高であった(図 )。こられの藻のうち、カナダモは11月になってもよく成育していた。

(付記：新旭町水鳥観察センターは、毎年観察報告「みずとり」を刊行しており、平成12年度で14号である。14号の内容は、新旭町水鳥観察センター前水鳥の遊泳状況、水鳥に給餌、湖西水域のコハクチョウの越冬状況、冬季新旭町内で見られる陸の鳥、新旭町水鳥観察センター施設利用状況、俳句で綴る水鳥観察日誌、である。)